

第16回生活保護問題議員研修会

地域から変える 生活保護をあたりまえの権利に 報告

日時：8月23日（土）10：00～16：40

場所：ポートメッセなごや・コンベンションセンター3階

内容：

記念講演1 講師 桜井啓太氏 立命館大学・生活保護情報グループ

データが語る生活保護行政の実態～自治体の運用格差とその影響

群馬県桐生市の生活保護行政の違法性から、全国各自治体の運用の差を比較した
保護増減率マップ 法定期限内処理がされているか 自動車保有容認 病院移送費
扶養照会率 等 自分の自治体がどのような位置にあるのか、確認が必要

基調報告 講師 吉永純氏 花園大学 社会福祉学部

保護基準の引き上げと生活保護の最大限活用で住民の暮らしを守る～生活保護の最新
情勢から

- 1 市民と生活保護世帯の苦難
 - 2 6・27 いのちのとりで最高裁判決の巨大な意義
 - 3 生活保護・裁判の現状
 - 4 自治体闘争の前進～桐生市と秋田市
 - 5 ファクトチェック～難民、外国人と生活保護・国保
- おわりに 今こそ、地方議員の出番

報告1 講師：田川英信氏 生活保護問題対策全国会議事務局次長 元世田谷区生活
保護担当職員 社会福祉士

自治体の不適切な運用をなくす 議員活動に期待すること
権利になっていない生活保護 水際作戦は何故おこるのか

- ① 研修体制の不備・不足
- ② 職員の質の担保ができていない
- ③ 人事異動サイクルが短い
- ④ 職員の総定数抑制 人員不足
- ⑤ 監査（指導監査）の方向性

報告2 講師：太田伸二氏 弁護士

自動車保有を変えれば生活保護行政が変わる

- ① 地方における生活保護利用に立ちはだかる最大の壁—自動車利用制限
- ② 自動車保有・利用はどこまで認められているか—現在の厚生労働省通知を活用する
- ③ 自動車利用の制限は「ほぼ」取り払われた—鈴鹿市事件の展開と厚生労働省事務連絡の変遷
- ④ これからどうすべきか—改善のための取り組み

記念講演2 講師：岩永理恵氏 日本女子大学教授

「ナショナル・ミニマムとしての生活保護基準の歴史とあるべき姿」

- ① 生活保護行政の現状
- ② 保護基準の現状、その複雑さ
- ③ 「最低生活」の貧しさ
- ④ 最低生活費・保護費
- ⑤ 新しい最低生活費の算出方法 MIS 法
- ⑥ まとめ

報告3 講師：小久保哲郎氏

生活保護問題対策全国会議・いのちのとりで裁判全国アクション事務局長 弁護士

「いのちのとりで裁判弁護士団・原告からの報告」

生活扶助基準引き下げの違法性を認め、保護費減額処分を取り消しを命じる歴史的判決

要請事項

第1 被害の回復

- ① 全利用者に対する真摯な謝罪
- ② 改定前基準と差額保護費の遡及支給
- ③ 生活扶助基と連動する諸制度への影響調査と被害回復

第2 再発防止

- ① 検証委員会の設置による事実経過と原因の調査・解明
- ② 生活保護基準改定方法の適正化
- ③ 権利性の明確な「生活保護法」の制定

取り組みの交流 片山薫氏 小金井市議会議員

「小金井市議会での「生活保護基準あげろ」意見書採択の経緯について

- ① 小金井市議会の議会構成の特徴、議会改革の歴史、風土など
- ② 意見書の提案、採択までの過程
- ③ 片山がこだわってきた生活保護問題

④ 近年、採択された3つの意見書

「所感」1日かけて屈指の講師陣からの講義は大変参考になりました。マクロな視点で、わが自治体の運用をどうみるかという点や保護基準をどうみるかという視点で改めて生活保護基準が最低生活にも満たない点や自治体によりその運用に格差があるということが分かりました。そうした中でも地方議会から生活保護行政の改善を求める意見書の取り組みなど大変参考になりました。議会でも一般質問で何度も取り上げてきましたが、その根拠となる材料が様々示されたので今後の議会活動に活かし、本市の生活保護行政の改善を引き続き求めていきたい。